

2022年度 介護福祉士養成大学連絡協議会 総会及び情報交換会 開催報告

介護福祉士養成大学連絡協議会 会員各位

介護福祉士養成大学連絡協議会 会長校

2022年度 介護福祉士養成大学連絡協議会 総会及び情報交換会 開催報告

2022年7月23日（土）10：30～15：30に、新型コロナウイルス感染症の拡大のためZoomによるオンライン形式で、2022（令和4）年度介護福祉士養成大学連絡協議会総会及び情報交換会が開催されました。全国から多くの会員（正会員大学26校34名、個人会員1名、現理事1名、出席者総数／総会36名、情報交換会22名）にご参加いただきました。

【介護福祉士養成大学連絡協議 通常総会 10：30～12：05】

通常総会は、理事会が提案した下記の議事全てが承認されました。

<議事>

- 第1号議案 2021年度介護福祉士養成大学連絡協議会 事業報告
- 第2号議案 2021年度介護福祉士養成大学連絡協議会 収支決算・監査報告
- 第3号議案 2022年度介護福祉士養成大学連絡協議会 事業計画案
- 第4号議案 2022年度介護福祉士養成大学連絡協議会 予算案
- 第5号議案 「介護福祉士養成大学連絡協議会理事及び監事選出規則」改正案
- 第6号議案 介護福祉士養成大学連絡協議会 第8期役員（理事・監事）選挙結果

<報告>

- 介護福祉士養成大学連絡協議会 入退会者
- 介護福祉士養成大学連絡協議会 会員名簿
- 第7期総括
- 第8期会長挨拶

【調査研究委員会報告 13：00～13：50】

午後の情報交換会の前に、調査研究委員会の成果報告として「介護福祉士養成大学卒業生のキャリア形成に関する調査」の発表が行われました。

【情報交換会 13：50～15：35】

情報交換会は5グループに分かれ、フリートーキング形式でグループセッションを行いました。その詳細を、グループ別の内容を加工せず、そのまま掲載しておりますのでご参照下さい。

情報交換会に参加し、貴重な情報提供、ご意見を頂きましたことに心より感謝申し上げます。

【Aグループ】

(1) 実習について

- ・春学期の実習は完了したが、秋学期の実習は不透明。
- ・コロナの影響で、学年によって、実際に実習を行った日数に差がでている。
- ・ここ数日、今後の実習に関して断りの連絡が入ってきている。
- ・2年生が現在実習中。ただし、実習巡回は不可で、オンライン等で実施している。
- ・実習中の学生がコロナ陽性と判明し、対応に追われている。当該学生に確認したところ、実習期間中にもかかわらず、飲み会に参加していたことが判明した。
- ・ワクチン接種を必須にしている実習施設がある。ワクチン接種は任意と学生に指導している。
- ・ワクチン接種を必須にしている施設はあるが、その場合は実習配属しない、実習時期をずらして受け入れ可能な施設に配属するなどの対応をしている。
- ・実習時期をずらした場合、事前指導と事後指導は個別対応のような状況になり、大変である。
- ・これまで代替演習も行ってきたが、十分な学びにならないことから、できる限り実習配属するようにと考えている。
- ・昨年度、実習指導者が参加する連絡会を開催し、実習施設が相互に情報交換できる場を設定した。

(2) 定員充足について

- ・定員を満たせていない。25名定員に対して13~15名の登録。
- ・「専門学校は留学生が多い」というイメージから、入学者は増加傾向。
- ・18歳人口減少によって、ランクの低い大学から入学者が減少していく。
- ・介護協会は、留学生受け入れの研修会を開催する。
- ・介護コースの入学者は、昨年度は10名、本年度は13名だったが、社福コースとしては定員を満たしている。

【Bグループ】

◎学生の募集状況（入口）と就職先（出口）について

- ・介護コースについて、介護の専門学校もある。専門学校から大学教育も20年前から設置。専門学校の方は、20人くらいの人数。外国人入学者は受け入れてはいない。大学の方は、15人くらいが介護コース。ダブルライセンスについては、介護は取りやすいという言い方をしている。社会福祉士は、合格しない可能性もあるので、1つは介護をとった方がいいのではないか？という募集内容としている。精神保健福祉士コースを希望する学生が多い。案外当事者だった学生が多いのではないかという気がする。来年度から公認心理士の資格取得も考えている。心理や精神が人気なのではないか。今の状況を見極めながら、就職出口も考えていきたい。介護の学生の就職先は、ダブルライセンスをとれた学生は、高齢者施設等の相談職や現場に行っている。
- ・これまで4月からのコース分けをしてきたが、2年前から秋学期からの登録に変更した。昨年秋に入った2年生が今年の1年生のコース選択のために、動画を作成してくれて、オリエンテーションに使用することで、今年も30人以上の募集に繋がった。訪問介護実習が4年生であるので、訪問を目指す学生も何人かいる。

- ・ 50 人定員で、25 人くらい。卒業は 1 割が企業ですが、ほぼ介護の現場に行っている。社会福祉士もとれるが、特に心理系、MSWを目指す学生も多い。家政系の資格や運動系も資格とれる。秋から取れるようにするのはいい考えだと思う。居宅の実習は 1 年生でやらせているので、訪問の方の就職は難しい。4 年生で居宅実習もいいのではないかと思った。
- ・ 定員 20 名で、1 桁しか学生がいない。入学前から、3 コース選んでいる。介護をとって、プラス社会福祉士等を 2 年生から取っていく。ダブルを目指す学生の方が、合格率が高い。成績が良い学生が 2 つとっているのか、早くから実習があるからなのか、因果関係はわからない。ほぼ 100 パーセント高齢者施設や障害者施設に就職している。社会福祉士をもっている学生は何年後かに相談職に就いているように思う。社協とか MSW にすぐ就く学生はいない。精神と介護も取れるけど、精神を取る学生は少ない。
- ・ 例年 20 人から 25 人くらいが介護コースを希望している。1 時間目と 6 時間目の授業があって、真ん中は社会福祉士コースの授業があるので、バイトもやりにくい状況になっている。あとからできたコースの弱み。4 月からコース選択するので、覚悟できる学生しか所属できないので難しい。大学の方で、卒業生が語るキャリア支援という授業があって、そこで、学生に話してもらったり、施設のアルバイトを斡旋しながら、学生に繋げていくようにしている。8 割くらいが高齢者施設への就職を希望している。4 年生にも実習をばらしていく方向。

◎実習の状況や卒業生との関わり、2 年制と 4 年制との違い

- ・ 実習の状況はコロナとの闘いですが、老健はなかなか難しい状況。特養の方が実習しやすい。老健実習を切り替えている。介護実習は、長期間になるので。卒業生との関わりとして、卒業生に話に来てもらっている。スーパービジョンを卒業生に教えてもらったりしている。介護の良さを学生に話してもらっている。専門学校を復活させて経緯が、即戦力が欲しいので復活させた。大学では、母数が集められない。専門は 2 年で、即戦力で現場にいけるが、2 年制から 4 年制にくる学生もいる。キャリアを積みたいという学生には大学を勧めている。
- ・ 2 年制と 4 年制の介護福祉士の違いは、ホントはどこにあるのか。この間、現場に聞いてみたら、アセスメントの仕方が 4 年制の方が上手い。介護に関する考え方が深い。神奈川県は 4 年制の介護福祉士を積極的に採用しているときいた。
- ・ 今も専門学校に非常勤で行っているが、専門学校の学生の方がマナーができています。期待感は 4 年制大学の学生が強い。早めにリーダー研修に行かせてもらっているようだ。実習状況については、障害者施設の方が実習をしにくく、断られている。卒業生は、実習指導の時に同席させてもらっている。
- ・ うちの学生は大器晩成と現場に言っている。1 年間の受験勉強のため、せっかく覚えた介護技術とか会話力とかを忘れていてのではないかと思う。
- ・ ゼミや演習等で、アクティブラーニングとかグループワークなどを 4 年制はよくやっているの、そういうことは得意なのではないかと思う。

【C グループ】

1. 介護実習

- ・8月1日から2学年が実習する予定。感染拡大状況になっている。病院系の施設から断りが入っている。短大に介護福祉養成があり、4・2年制大が同じ期間の実習となり、実習先の取り合い等が発生する。コロナが始まってから、新規契約等の拡大を行っている。

実習先を見つけるやり取りの事務が多い。学内実習は最初の初年度のみ。最後の4週間（学内実習）、時間数確保が大変。専任教員との負担も大きい。現場実習で実際に利用者とふれあいを学生に与える。

➡総合実習4週間まるまる学内実習を行った時は、3事例を作り、学生に提供する。ペーパー事例をグループワークで行った（個人➡グループワーク➡クラス教員）。

現場実習ですと、学生が受け持つ事例がバラバラであるため、学生の理解等の確認が難しかったが、今回、教員が用意した事例をもとに複数の学生との検討で理解できた。

学生が別の学生の事例についてカンファレンス、意見交換を通して、力をつけさせるトレーニングになった。

- ・今季から実習が始まる。夏休みは社会福祉実習。感染者が増えている状況。断りはまだない印象。状況を見ながら実習を受け入れる感じ。理学・作業療法士も養成している学科であるので、できる限り実習に行かせるとなっている。➡部分的にできなかったことを大学に持ち替えて、学内学習で行った。

- ・介護福祉士・社会福祉士 ダブル資格 8月8日（月）～2年生の実習、9月は3年生の実習が始まる。今のところ、断りはない。施設側からは、様子を見ながら、受け入れをしてもらっている。施設側が大学の学生を受け入れさせてくださっている。昨年度夏は、感染者の拡大により急遽断りがあったが、他の施設との相談によって、受け入れ可もあった。学生への負担が大きかった。時間数や実習内容を優先にすることが大事だった。事前学習を行い、学生（不安の解消等）のフォロー支援が大事ではないか。学内実習検討はあったが、一度も行ってない。できれば、現場実習を行うべきということが、大学教員の共通認識。実習期間を延期してもかまわないので、現場実習をさせましょうという動きである。

➡学内実習を準備するのが、なかなか進まなかった。イメージがつかない。聞きたい。

学内実習のメリット、よかったこと（通常の実習との差）について聞きたい。

- ・学期中の実習である。コロナの最初は、学内実習を行ったが、学生・教員の負担が大きかった。春学期（5-6月）実習は、無事に終了している。秋学期（11-12月）実習は、これからであるが、まだ実習受け入れ不可、辞退等の連絡はない。

2. 国家試験

- ・4年生に時間を作って、国家試験対策を実施している。カリキュラム上では、介護福祉士資格のみ、社会福祉士別のみを取る学生のクラスを作るという形がある。

- ・4年生になってからの対策が中心。指定科目以外に、国家試験関連科目の前期1コマ、後期に3コマ、配当している。今年は、ダブル資格取得者が多い。単位履修のオーバー等が発生しているため、介護福祉士の国家試験は単位取得ではなく、聴講の形。聴講のせいか、休んでいる学生が多い。社会福祉士（よりエネルギーがよる）の国家試験の難易度が高いというイメージが多いため、介護福祉士は各自のペースで行うようにしている。金銭的な面、模試の補助を行っている。

- ・3年生に「合格きつと（※リニューアル）」の使い方を説明している。4年生になると、4月の最初の授業の際に、3年分の過去問配布（介護+社福）。6月に国試チャレンジ4回（2年分午前午後分けて4回分）。3回模試（中央法規2回、学力テスト1回）を実施している。模試で7割未満の学生は、勉強ノート作成するように指導している。

ダブル資格、3年生の後期から対策を行っている。4年生 社福2コマ、介護2コマの国試対策の科目がある。介護の学生は、大学の受験勉強を行っていないので、勉強方法を教えなければならない状況である。介護福祉士100%を目指している。6回の模試を行っている。受験費用は4/3を大学側から補助する。留学生も受け入れているため、留学生の引き上げが課題である。

3. 学生募集

- ・ 厳しい状況である。2021年から社会福祉士4年の改定があった、入学の時に、社会福祉士のみか、ダブル資格を取得するのか、後期から追加登録するように切り替えた。介護コースの人数が増えた。今は、最初福祉に興味を持っている学生は来てくださいと募集してから、後期から追加登録するようにしている。学生募集については、様々なことを取り組んでいる。施設の関係者の家族も入学できるように取り組んでいる（実際に、介護に入った学生のうちには、父・母が施設長あった等があった）。
- ・ 2021年から秋学期からコース登録（実際に、6月コース発表）となっている。今回、2年（PR動画・チラシ作成、レク・体験等を企画）の主導的な企画により、40定員のうち32名が入った。また、1年ゼミを持っている先生方にも介護コースの行事について1年生に伝えるように声かけた。
- ・ 介護学専攻なので、定員が40名決まっているため、集まらない等の悩みがある。オープンキャンパス等学生が主導も必要ではないか。
- ・ 秋学期からコース登録、厚生局への申請について気になる。春学期の授業の中で、入門的な介護等の科目を導入しているか。⇒ 開講する半年前に届け出を出したらよい。介護福祉士関連の科目を何年次のいつ開講するか等、結構細かく聞かれる。介護に関する入門的なプレゼンテーションを行う時間を設けている等（週3コマ分程度）

◎その他

4年制大学での魅力発信について

- ・ 4年制大学、時間にゆとりということがよいのか、悪いのか。短大や専門学校のタイムスケジュールについていけないという学生がいる。一度失敗しても再チャレンジができるということがメリットだが、募集の時には、言えない。上の学年と下の学生との体制がとてもよい（先輩・後輩関係、意見交換等）。学内に4年生、先輩のモデルがいるということはとても強みである。

【Dグループ】

○学生募集

- ・ 地域性。法人との関わり大きい。
- ・ 自発的に2年生が1年生にプレゼン、体験イベントを企画。動画で募集。学生が中心に。教員より学生が伝える魅力の方が伝わったような気がした。
- ・ 研究発表で卒業生の介護の魅力がよかった。高校生へ伝える術がない。高校訪問へ行くと、医療は人気だけど、介護のなり手がいない、と言われる。核家族化、介護に触れる機会がない。広報を広げているが・・・。
- ・ OCやツアー、模擬授業。YouTubeでHPに掲載。
- ・ 模擬体験授業はコースに分かれる。途端に人数が減る。

- ・障害スポーツ学部で、スポーツにどっと一定しまう。出張講義に行ったり、スポーツは多い。
- ・別科から数名留学生はいる。グループ内に法人があり、技能実習生がいる。優秀な人が実務者研修に。中国から看護をもって実務者研修受講。
- ・専門学校は留学生にシフト。今年度は日本人を上回っているところも。

○学生の課題

- ・学生の背景が多様化。課題が多い。
- ・介護以外は医療。そのなかで看護師になりたかった学生の第2希望が2名いる。それ以外は姉からの推薦。4名は最初から介護。意欲的。入学直後から積極的。再度、看護をチャレンジしたい、といっている。その学生を何とか介護に。
- ・他学科から転部してくる学生の扱いに困った。
- ・専門には職業訓練性などもいて、扱いの難しい。実習先に任せる部分も。実習で変わるケースも。変わってくれる実習先に配属をしていた。
- ・現在の4年生は、1年間は実習をしていない。その学年は、成長のタイミングを逸している。

○実習の状況、PCR負担状況

- ・3年障害春終わった、4年訪問終了、3年11~12月、
- ・夏から現状は行う予定。どの施設もPCRで。
- ・他の資格も必要。個人負担。5月はいくつかは施設負担。事前は自己負担。
- ・大学負担。この後は・・・2年次以降は検討中。臨床検査の先生がやってくれる。看護学生なども実習先の求めによって。
- ・国に費用負担を求めたい。
- ・検便検査、あるところとない所も。施設から求められないところもある。厚労省の指導では入って戸惑った。

【E グループ】

- 介護福祉職の待遇は以前と比べれば良くなっている。また、介護福祉職が働き続ける環境も整えられつつある。しかし、このような変化について、高校生、高校の教員、保護者などに十分に伝わっていないのではないか。現状を的確に伝えていく努力が必要ではないか。
- 学生が主体になったさまざまな活動を積極的に活かしていこう。
学生募集PR動画を学生が作成する、上級生が下級生に生活支援技術の指導をおこなう、地域活動に教員とともに参加したり、実際に教える役割をもつなどの活動に取り組んでいる大学もある。このような活動や、学生が学んでいる様子の動画を各大学で作成して、協議会のホームページなどで共有できるのではないか
- 研究報告などを通じて、リーダーシップやチームマネジメントの教育の重要性を再認識した。介護現場の現状として職場の人材育成をしていく体制がまだ十分に整ってないこともあり、職場の状況によっては卒業生が負担となることもあり、介護現場と一緒に課題を考えていく必要があるのではないか。

社会福祉士養成カリキュラムに医療的内容が余りに少ない印象がある。現代的ニーズに応える人材の養成によって必要であり、介護福祉士養成カリキュラムのほうが充実している。このことも4年生大学として、ダブルライセンスを持つ介護福祉士の重要性をアピールする点になるのではないか。看護師出身の教員の視点から、介護と看護の違いをとらえて、介護の魅力の魅力をアピールすることもできるのではないか。

- 利用者一人ひとりの人間を総合的、多角的にとらえて深く理解して支援できること
- 利用者の可能性や望みを生かす支援ができること、そのことによって利用者の喜びを作り出すことができること
- 一人の利用者にじっくりと関わって、寄り添う支援ができること

以上のようなことがあるのではないか。